

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		東南アジアの政治 Politics in Southeast Asia			担当者所属 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明		
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	地域・文化(各論)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>中国が政治経済的に台頭する中で、東南アジアはこれまで以上に日本にとって重要なパートナーとなりつつある。東南アジアは、経済的には中国、インドと並んで比較的高い経済成長を続ける一方、政治的には、民主化の後退とも思える現象も起きている。インドネシアでは1998年に民主化が始まり、ミャンマーでもついに民主化が始まったものの、タイでは2014年にクーデターが起こり軍政に逆戻りし、絶対王政化の兆しもある。フィリピンでは、治安のために民主主義を否定しかねない人物が2016年に大統領に就任した。そして、カンボジア、マレーシアでは民主化の動きはあっても実現の可能性は乏しく、シンガポールでも一党支配体制は堅固である。それでは、こうした東南アジアの政治をどう考えれば良いのであろうか。冷戦下のインドネシアやカンボジアの大虐殺をどう考えれば良いのであろうか。経済成長と民主主義は両立しないのであろうか。宗教や民族アイデンティティは政治にどのようなインパクトを与えているのであろうか。また、日本は今後、東南アジア諸国とどういった関係を取り結んでいけばいいのであろうか。こうした点について、本授業では皆と考えていきたい。</p>									
【到達目標】									
<p>東南アジア諸国の特徴を一般的に理解したうえで、東南アジア諸国に見られる権威主義体制、社会主義体制、民主主義体制の歴史的変遷を理解する。そして、各国の政治の抱える課題とその対処法を学ぶ。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>次のような流れで講義を進めていく。ただし、進行具合により変更の可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東南アジア政治の可能性 2. 東南アジア国家の歴史的変遷 3. 東南アジアにおける国家と暴力(1)：概論 4. 東南アジアにおける国家と暴力(2)：インドネシアの事例 5. 東南アジアにおける国家と暴力(3)：カンボジアの事例 6. インドネシアの政治：イスラームと民主主義の両立？ 7. フィリピンの政治：非民主的大統領の民主的誕生 8. ミャンマーの政治：アウン・サン・スーチーと民主化 9. タイの政治：軍政から絶対王政へ？ 10. マレーシアの政治：揺らぐ一党支配体制 11. カンボジアの政治：ポル・ポト後の強権支配 12. ベトナムの政治：市場経済と一党独裁の両立・非両立 13. 東南アジアでのマイノリティの政治：LGBTの政治 14. 東南アジアと日本 									
----- 東南アジアの政治(2)へ続く -----									

東南アジアの政治(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

第5回時のエッセイ(20点)と定期試験(80点)で評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

片山裕・大西裕編 『アジアの政治経済・入門(新版)』(有斐閣) ISBN:978-4-641-18386-5

山本信人編著 『東南アジア地域研究入門3政治』(慶應義塾大学出版会)

白石隆 『海洋アジアvs.大陸アジア:日本の国家戦略を考える』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623075713

ベネディクト・アンダーソン 『定本 想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』(書籍工房早川) ISBN:978-4904701089

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する参考文献を使いながら復習をしてください。

【その他(オフィスアワー等)】

毎授業ごとに感想を書いてもらい、出席代わりとします。ただし、評価は第5回目のエッセイと試験です。面談希望者は、okamoto(at)cseas.kyoto-u.ac.jpに連絡をしてください。(at)を@に変えてください)。

【主要授業科目(学部・学科名)】